

平成 18 年 4 月 17 日

点検停止中の 2 号機における警報の発生について

当所 2 号機は平成 18 年 3 月 21 日より点検停止^{*1}中ですが、平成 18 年 4 月 14 日午後 2 時 18 分、起動領域中性子束モニタ^{*2}チャンネル (H) の「ペリオド短短トリップ^{*3}」および「原子炉自動スクラム^{*4} B 系」の警報が発生しました。

警報発生時、原子炉内には燃料集合体が全数装荷されていたことから、ただちに起動領域中性子束モニタを確認したところ、チャンネル (H) の指示のみ瞬時に上昇・復帰しており、他の 7 チャンネルの指示に変動がないことから、当該チャンネル (H) の誤動作と判断いたしました。

このため、発生した警報については当該チャンネル (H) のバイパス^{*5}操作を行い、解除いたしました。

今後、原因を調査し、必要な対策を講じます。

なお、起動領域中性子束モニタは、残りの 7 チャンネルで原子炉の状態監視が可能であり、機能上の問題はありません。

また、これによる外部への放射能の影響はありません。

以 上

これは「当社原子力発電所における不適合事象の公表方法の見直しについて」（平成 15 年 11 月 10 日お知らせ済み）における区分Ⅲの事象として、休前日に発生した不適合事象を翌営業日に公表しているものです。

* 1 点検停止

平成 18 年 3 月 14 日、原子炉再循環ポンプ（A）が自動停止したため、発電機出力が約 33 万キロワットまで低下した。その後、プラントを安定に維持するため発電機出力を約 17 万キロワットまで降下させ原因調査を行ったが、インバータ内の電気回路の一部に故障が認められたことから、詳細な調査および対策を実施するため、原子炉を手動停止した。（平成 18 年 3 月 14 日、20 日お知らせ済み）

* 2 起動領域中性子束モニタ

原子炉の停止中および低出力運転時に中性子の量を測定する装置。

検出器は 8 チャンネルあり、1 系列 4 チャンネルずつで 2 系列に分かれている。

* 3 ペリオド短短トリップ

中性子の量が急上昇または機器の動作不良が起こるとこの警報が発生し、原子炉を自動停止させる設計となっている。

* 4 原子炉自動スクラム

原子炉を緊急停止するための信号が片系統だけ発生した状態であり、制御棒は動作しない。スクラム信号は A・B 両系が同時に発生することで制御棒を全挿入し、原子炉を緊急停止させる。

* 5 バイパス

モニタを 1 チャンネルずつ点検校正するために、制御回路から切り離す機能。